

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901761		
法人名	有限会社 あらた		
事業所名	グループホームあらた(ユニット1階)		
所在地	旭川市豊岡8条1丁目3番20号		
自己評価作成日	平成23年7月15日	評価結果市町村受理日	平成23年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外へ積極的に出掛け楽しんだり、季節の花や野菜の苗を植えて、それを育て収穫するなど身近に季節を感じて頂く、又自分達で出来る事は職員の見守りを受けながら一緒に行くなど入居者一人ひとりのIQOL・IADLを維持・向上できるよう支援に努め、何気ない日常の行動が本人の自信となり、生活する上で充実・達成・満足を感じて頂ける支援を行っている。
ホーム開設より7年経ち、地域の方との交流も深まり「出来る事は手伝いたい」と力強い声掛けも頂いている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901761&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年8月24日

<介護事務の効率化に向けての整備と個別の情報収集>
利用者の日常生活における個別の情報の集約と職員間で共有するためのセンター方式を取り入れた改善版や個別処遇リストの作成など、入居者の日頃の介護や管理の記録が判り易く詳細に整備され、他のホームに類を見ない工夫と改善の努力の取り組みになっている。
<家族との絆の支援>
家族会が設置され、日頃から家族との連携を深めると共に4ヶ月毎に「あらた通信」による日常生活の近況報告や行事が写真掲載で報告され、毎月の「あらたの様子」便りでは、外出行事や入居者の個別の様子を介護員のコメントで知らせており、家族との信頼関係を築くための、きめの細かい伝達の支援を行っている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は申し送り後に職員で復唱し、また玄関・1、2階フロアに掲示板に掲示し常に意識し介護に従事している。	施設内の掲示やミーティング時の唱和を通じて、職員間で理念を共有している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所への散歩などで地域の方々と触れ合い、消火訓練へも参加して頂いたり、冬場の雪かきなど手伝ってくれたりもしている。	地域活動に積極的に参加したり、事業所の火災避難訓練には地域の住民の参加もあり、日頃から散歩などで地域の人達と日常的な交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣商店や飲食店との付き合いを心がけ、資源回収にも協力している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の役員や民生委員又協力医療機関、入居者家族の方に参加してもらい、理解や協力を頂きながらサービスの向上に取り組んでいる。	地域住民や家族、関係機関の人々の参加を得て、運営に関する報告や利用状況等具体的な内容を話し合っている。今後は市か、包括センターに協力参加の依頼をして、推進会議の開催を期待します。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者に質問事項を通じて指導・助言を受けるとともに、担当者訪問時はサービスの実施状況を伝えアドバイスを頂いたりと関係を築いている。	市や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、事業所の取り組みを伝えながら、連携の協力関係に努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりに合わせたケアを心掛け、見守りを強化する事で安全、安心に努めている。	身体拘束廃止委員会で管理者及び職員の認識の共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない一人ひとりに合わせたケアの実践に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束、虐待に関する研修に参加し、職員全員の理解を深めるため全体会議にて周知、検討しケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	司法書士より権利擁護に関する指導を受け状況に応じたアドバイスを受けている。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様・ご家族様と事前面談を行い運営説明や入居に関する一切を事前に説明し、同意を得ている。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の掲示や玄関に意見箱を設置している。家族様面会時に希望・要望など職員や管理者に直接話しができる様常日頃から交流を図っている。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように意見箱を設置されており、また、家族が職員と直接話しができる雰囲気になっている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から職員の意見や提案を聞く機会を設けており、介護ミーティングなども意見交換の場として活用している。	毎月のミーティングで職員の意見や要望、提案を聞くよう機会を設けて、介護ミーティングでも意見の交換の場となり、運営に反映できるように取り組んでいる。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場での実績や勤務状態を把握し、資格修得への機会を設けたり、資格修得者には昇給の機会がある。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	医療機関の協力やGH協会の研修に参加するなど職員のスキル向上の為に参加している。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加し介護支援に関わる多様な支援や情報をグループワークを通じ交流を深め質の向上に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の生活状況を事前把握し本人の意向や希望を尊重し、暮らしやすい生活作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時にご家族様のご要望や不安な事などをお聞きしケアに取り入れている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様と入居者様の生活暦を把握し必要な支援を心掛けている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	簡単な調理や掃除など得意な家事や軽作業をスタッフと共に行っている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加して頂いたり、家族との触れ合いを大切にできるような時間を設けるように支援を心掛けている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室への電話の設置も可能であり、持参していない方もホームの電話で対応可。希望時の外出支援も行いなじみの関係が継続できるように支援している。	過去の生活歴を把握し、希望を聞いて外出への支援を行い、馴染みの人との交流の機会を多くもてるように努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、トラブルの回避に努め、トラブル発生時は職員が間に入り早急に解決できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他入居者様と共に入院先にお見舞いに行ったり、退居後も本人様やご家族様より相談・連絡あれば対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族様の意向を常に傾聴し把握に努めている。	家族や一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めており、職員間でも情報の共有が行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やその他関係機関からの情報提供や入居者様との会話より情報収集している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員担当制にする事でより細かな状態観察に努め入居者様の快適な生活を支援している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様に必要な支援を話し合い検討、又家族様の要望も職員は把握し、重点とする課題や支援内容を決めている。	センター方式を利用して本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別処遇リストを作成し統一したケアの提供に努めており、日々の状況を記録し体調や心理面の変化など細かく観察し計画作成している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院・入院対応の他訪問美容や個々の外出支援のニーズに応えるよう家族様の協力も頂き対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防職員を招いての消防訓練の実施や救命救急の講習会などに参加して頂き安心して暮らせる環境作りに努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期の往診・受診の他、緊急時の個別対応など担当医師などの意見を頂き適切に行えるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医師の往診や急変時の対応等適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しておりバイタルサインのチェックや往診時の対応実施。日頃から入居者の体調の変化を相談したりと情報交換に努めている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院が可能となるよう病院側と連携し情報交換に努めている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期に向けた当ホームの方針を説明している。状況に応じ担当医より家族様と職員を交えて話しをする機会を設けている。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。また、状況によっては、医師や家族、職員を交えて話し合いの場を設けて支援をしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しいつでも確認・対応できるように設置。救急講習を定期的実施し発生時に備えている。又簡単な応急処置など看護師に教わったりしている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施と運営推進委員を地域住民の方に依頼しており協力体制を築いている。	消防署をはじめ地域の協力を得て、年2回火災避難訓練を実施し、設備の定期点検も行われている。		
、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりを尊重し、個々の性格や気分に合わせた対応や言葉掛けを実施している。	誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間で共有している。個々の性格や気分に合わせた言葉掛けをしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃より入居者様の話や傾聴し、思いや希望が汲み取れる様な雰囲気作りを心掛けている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活のペースを大切にし見守りする中でご本人の思いや意向に添った支援を心掛けている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全介助の入居者は職員で身だしなみの支援を行っている。入居者と一緒に衣類や日用品の買い物に行くなどしてご本人の希望も取り入れている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人に合った食器や自助具を使用する事で自力摂取を促し楽しんでもらえるよう工夫したり、食器拭きや食材の下ごしらえなど個々の能力に応じ手伝いなどもしてもらっている。	個々の能力を活かしながら、職員と一緒に楽しんで食事の準備、食後の後片付け等をしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量や月初めの体重測定の実施にて状態の把握や個人の嚥下状態に合わせて提供方法を考慮しながら食事・水分の提供をしている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状態に応じ支援し、週1回歯科衛生士の指導を受け個人にあった用具を使用。又、講習会などに出席し実践している。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し声掛けや誘導をしている。夜間おむつ使用の方も日中は積極的にトイレ介助を行っている。	排泄チェックで排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように積極的に支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質の多い食材の使用や個人で乳酸菌飲料を定期的に飲用したりしている。下剤が必要な方は医師の指示により内服調整している。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	受診や外出を考慮しながら、個々の体調に配慮し職員とのコミュニケーションの場としても重要な支援と捉え支援をしている。	一人ひとりの希望やタイミング、個々の体調に配慮し、職員との重要なコミュニケーションの場として捉え、入浴を楽しめるよう支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣や体調を考慮し状況に応じて休息が取れるよう支援している。日中は散歩やレク活動・リハビリなど適度な運動を実施夜間良眠できるよう支援している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の手の届く所へは置かず内服も確認しながら確実な服薬に努めている。症状の変化についても十分留意し記録や申し送りを実施している。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が楽しんで頂けるような行事を起案・実施したり生活暦やADLに合わせた軽作業を職員とともに行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>個人の希望に応じて買い物・散歩・食事に行く等支援している。又ご家族様や友人の方の協力も頂きドライブや映画を観に行かれたりもしている</p>	<p>一人ひとりの希望にそって、買い物や散歩、食事に行く等戸外に多く出かけられるように支援している。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>多額の金銭・通帳はご本人様の了解得てご家族様やホーム預かり管理をしている。買い物や食事など外出時に手渡し使用して頂いている。</p>			
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望により電話の設置や手紙を出す支援を行っている。</p>			
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎日の清掃・消毒換気を行い、気持ち良く過ごせるよう支援している。入居者の作品展示や行事・日常での写真掲示やホーム壁面を利用し季節毎の演出も楽しんでもらっている。</p>	<p>季節毎の行事の写真の掲示や椅子やソファの配置等で利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、毎日の清掃・消毒換気を行い、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>本人用の椅子やソファをホールに用意しくつろげる居場所になるよう配慮している。</p>			
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用していた家具や小物を継続して使ってもらう他本人のライフスタイルに合わせて家具を購入・配置し住み良い部屋作りを心掛けている。</p>	<p>本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具などを配置して、本人のライフスタイルにあわせて居心地よく過ごせるように工夫をしている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの状態に合わせてトイレ・居室の出入り口に表示を付けたり、ナースコールに簡単な説明書きを表示するなど解りやすく又、自立に繋がる工夫をしている。</p>			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901761		
法人名	有限会社 あらた		
事業所名	グループホーム あらた(ユニット2階)		
所在地	旭川市豊岡8条1丁目3番20号		
自己評価作成日	平成23年7月15日	評価結果市町村受理日	平成23年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外へ積極的に出掛け楽しんだり、季節の花や野菜の苗を植えて、それを育て収穫するなど身近に季節を感じて頂く、又自分達でできる事は職員の見守りを受けながら一緒に行くなど入居者一人ひとりのIQOL・ADLを維持・向上できるよう支援に努め、何気ない日常の行動が本人の自信となり、生活する上で充実・達成・満足を感じて頂ける支援を行っている。
ホーム開設より7年経ち、地域の方との交流も深まり「出来る事は手伝いたい」と力強い声掛けも頂いている。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901761&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年8月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心と尊厳のある生活」を理念に掲げ、ホールに掲示したり、朝のミーティングで唱和を行い、職員一同で意識統一を図っている		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所への散歩など地域の方々と触れ合い、消火訓練や行事への参加を呼び掛け、交流している		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣商店などのと付き合いを心掛け、資源回収にも協力している		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の役員や民生委員、また協力医療機関、入居者家族の方に参加してもらい、地域の方々の理解や協力を頂きサービス向上に取り組んでいる		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者に質疑事項を通じて指導・助言を受けるとともに、担当者訪問時はサービスの実施状況を伝えアドバイスを頂くなど関係を築いている		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりに合わせたケアを心掛け、見守りを強化する事で安全、安心に努めている		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法などについて学ぶ機会に参加し、事業所内での全体ミーティングでは虐待が見過ごされることがないように、勉強会を重ね、防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	司法書士より権利擁護に関する指導を受け、状況に応じたアドバイスを受けている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様・ご家族様と事前面談時に運営事項や入居に関する説明を行い、理解・同意を得ている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の掲示や1F玄関に意見箱を設置し、普段からもご家族様の意見や要望を表しやすいよう、面会時などに声掛けをするなど働きかけをしている		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回行うミーティングや普段の業務の中で、意見交換や話し合いの機会を設け、運営に反映している		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場での実績や勤務状況をみて職員の声を聞き、研修会への参加や資格修得者への昇給の機会がある		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	医療機関の協力を得て勉強会を開催したり、研修会への参加など職員のスキルアップに努めて下さっている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講習会に参加し、他グループホームとの交流や情報交換などにより、支援の質の向上に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報を基に安心して過ごしてもらえるよう、今までの生活やご本人様の性格などを考慮し、一人ひとりに合わせた対話・環境作りに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様の希望に耳を傾け、来所時や電話連絡など密に状況の連絡を行うなど、安心してお任せしてもらえるような関係づくりに努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報を基にカンファレンスを実施し必要とされる支援を見極め、わかりやすく適切なサービスの説明を心掛けている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の心理・体調面を考慮しながら得意なことの手伝いや方法を教わるなど、支え・寄り添う関係を築いている		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お手紙・写真で毎月の様子を伝えると共に、入居者様と過ごす時間を大切に一緒に支援していく関係づくりをしている		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣住民の方の面会、お弟子さんとの交流など関係を継続する支援に努めている		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係や性格を考慮した上で、行事やレクリエーションを企画し、より交流が深められるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もホームへ遊びに来られるような環境作りや入院先への訪問など行い、ご本人様やご家族様より相談・連絡があった時は対応している		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制により、ご本人様の希望や意向を細かく把握し、カンファレンス内で検討している		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを活用し、個々の生活歴や馴染みの環境・出来事を把握したり、情報の共有を図り、日々の支援に活かしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なカンファレンスや日頃の様子を観察する中で細かな状況を把握し、より良い方向を見出すべく検討を重ねている		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様に必要な支援を話し合い検討、またご家族様の要望の把握をし、現状に合わせた課題や支援内容をケアプランに反映している		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケア内容の改善・工夫など管理日報や個人記録、連絡ノートに記録し、日々の支援につなげている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理容や個々の外出支援の他、カイロプラティック施術などできる限りのニーズに対応する努力をしている		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会役員や民生委員の方々と情報交換や年1回消防職員を招いた講習会など開き、地域で安心して暮らせる環境作りを行っている		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで受診してきた病院との関係を大切に、ご本人様の希望に合わせ受診・往診の調整をしたり、緊急時の個別対応などの指示を頂き、適切な医療を心掛けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置、他職員との入居者様の情報を共有し、体調管理・受診の対応など行っている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会をし、安心して治療できるよう生活面の支援と病院関係者やご家族様と密な連絡を交わし、情報交換を行うなど早期退院に向け取り組んでいる		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期に向けた当ホームの方針をご家族様へ説明し、状況に応じて担当医よりご家族様と職員を交えて話をする機会を設けている		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを目の届く所に設置したり、年1回の救命講習の実施などの備えを実施している。応急処置についても日頃看護師の指導や助言を受けている		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内役員が運営推進委員のメンバーでもあり、定期的に避難訓練、消火訓練と共に行い、職員の防災意識の向上や災害対策を身につけている		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの中でも話し合い、全職員が入居者様のプライバシーに配慮、人格を尊重した支援を行っている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から希望を言いやすい雰囲気作りを心掛け、話を傾聴しながら自己決定を尊重した支援を行っている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活リズムを重視し、その日の体調や希望に副った支援を実施している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみの確認や更衣時は本人の希望を取り入れたり、一緒に買物に出掛け本人の好む衣類や身の回りのものを購入している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みやできることを把握し、混ぜる・切る作業やおしぼり準備、テーブル拭きなど一緒に行っている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾患や身体状況、嚥下力など把握し食べやすく飲みやすい形態でバランスの良い食事・水分摂取を心掛けている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで清潔を保てる支援を行い、訪問歯科と連携し、口腔ケアの技術向上に努めている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、出来る限りトイレでの排泄、自力での排泄の継続支援を心掛けている		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、医師や看護師へ相談し指示を受けながら下剤の調整をしている。水分や乳製品の摂取の他、腹部マッサージを促している		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	受診や外出を考慮し、本人の体調や希望を伺いながら支援している。職員とのコミュニケーションの場としても重要な支援と捉え、個々の希望を尊重している		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良く休んでもらえるよう週1回寝具類を交換し環境整備をしたり、夜間良眠できるようにメリハリのある生活を支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容を理解し、服薬変更により症状の観察や薬剤師や看護師の指導のもと全職員で確認・把握に努めている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴やできること・好むことを活かし、充実した毎日が過ごせるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望を取り入れながら外出行事を企画し、個々の外出希望にはご家族様の協力や職員が付き添い支援している		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額の金銭や通帳はご本人様ので了承を得てご家族様やホームで管理している。小額を自己管理し買物時支払いしている方もいる		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室で電話利用している方は自ら家族へ電話したり職員が繋ぐ、手紙の代筆をするなどの支援をしている		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃・消毒・換気を行い気持ち良く過ごせるように支援している。ホーム内の壁に行事の写真や季節感のある装飾を掲示し、心地よい空間づくりを心掛けている		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいだり、エレベーター前の花の観賞や水遣り、テーブルを囲んでの談笑など思い思いに過ごしてもらえるような空間作りをしている		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用してきた家具や小物など変わらず使用することを出来る限り勤めており、落ち着いて過ごせるよう配慮している		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室やトイレ・浴室などわかりやすく表示したり、ホーム内バリアフリーで安全・自立を心掛けた環境づくりを行っている		

目標達成計画

事業所名 グループホームあらた

作成日: 平成 23 年 8 月 29 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	個別の記録と実践への反映	日々変化する入居者の行動や言動に対応する為個人の状態や状況が細かく観察でき変化が記録できる。	個別の処遇リストを作成(ケアプラン運動)し統一した支援の実施と特に精神面での支援が必要である方への声掛けや心掛けなど配慮すべき事柄の把握。	6ヶ月
2	47	安全な服薬支援	誤薬・服薬忘れなどの服薬事故の減少を図るため、個人の内服薬の種類や飲み方の把握と服薬する事での相互作用、副作用を知り服薬支援の意識を高める。	院外処方箋の調剤を依頼している調剤薬局に勉強会の開催をお願いする。	2ヵ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。